

特別支援教育だより

No4

さくら市立氏家小学校

令和6年1月31日



1. 上手なほめ方・しかり方

最近、教育の世界だけでなくスポーツなどの世界でも、「ほめて育てる」やり方が多くなっています。これは時代の流れであるとともに、罰の効果は一時的なものであり、しかるよりほめる方が、効果があることが実証されてきたからです。今回は、「なぜしかるよりほめる方が大切なのか」と「上手なほめ方しかり方」について、ご紹介したいと思います。

(1)なぜ罰を与えるのは、よくないの？

わがままやいたずらなどの「できればやめさせたい行動」には、罰より意図的に無反応を続ける方が効果的であることが実証されています。罰の効果は一時的であり、だんだんと効果が薄れていきます。そのため、同じ効果をあげるためには、より強い罰が必要になってしまうからです。危険行為や暴力などの「絶対にやめさせたい行動」は、短い言葉でしかって制止し、子どもが落ち着いたら、「やめられてえらかったね」と最後はほめて終わるようにします。

特定の人にいつもしかられていると、その人を恐れたり、周りの大人も嫌いになったりして、暴力などの反社会的行動が始まるおそれもあります。

(2)いけない行動が目について、しかってばかりになってしまう…

どんな子どもでも、必ず良い行動をしている時があります。例えば「うそを言わず、正直に言う」というように。いけない行動のみに注目してしかるのではなく、良い行動に注目して、「正直に言えてえらいね」などとほめてあげます。子どもは、ほめられることが多くなるほど自尊感情が高まり、そんな自分にふさわしい行動をとろうと、ますます良い行動が増えていきます。その子の「良い行動」に注目しようと意識することが大切です。

子どもの「良い行動」に注目し、ほめることを根気よく続けていくことが大切です。裏面では、ほめ方・しかり方のポイントについて紹介したいと思います。



〈相談窓口〉

氏家小学校

特別支援教育コーディネーター
教育相談

仲西倫代、鈴木光子
今 芳枝、仲西倫代、
岡田真実、渡辺好子

連絡先：TEL028-682-2758

2. ほめ方・しかり方10のポイント

① 心から

・子どもは、何かできた時には成功感や成就感を味わい、自尊感情を高めています。子どもの気持ちになって、「できたね」「えらかったね」「すごい」「優秀」と心からほめます。

② 毎回見逃さず、気付いたらすぐに

・子どものよい行動を見つけたら、その時その場ですぐほめます。『すぐに』がポイントです。

③ 身近な人にほめられるのが効果大

・お家の方、担任の先生や友達など、親しい人からほめられるのが、最も効果があります。

④ 子どもに成功感・成就感を与える

・「何をしているの!」「どうしてできないの!」などと言われ続ける
→ だんだんやる気がなくなります。
・ほめられる → 成就感を覚え、次第に、人にほめられなくても自分で自分をほめること(自己強化)ができるようになり、やる気が出てきて意欲が高まっていきます。

⑤ すぐにできそうにないことは、課題をスモールステップに分けて、できたことをほめる

・複雑な課題や難しいことは、スモールステップに分けて1ステップごとに「できた」という成功感を味わえるようにします。

⑥ 今、一番効き目のあるごほうびを探す

・最初に玩具のようなごほうびを使う場合も、必ずいっしょに「言葉でほめる」ことが大切です。そうすることで、言葉でほめられることが効果を示すようになっていきます。

⑦ できればやめさせたい行動は、しからずに知らん顔をする

・一番いけないのは、「いけません」と言いながら、やらせてしまうことです。「話を聞いて、その通り行動する」という基本的な学習態度が身につかなくなってしまいます。

⑧ できるだけ、しからない

・絶対に許せないこと以外はできるだけしからないようにします。自己肯定感がもてなくなります。

⑨ どうしてもしからなくてはならない時は、短くきっぱりと

・何が何でもやめさせるといふ、強い決意で、短い言葉で伝えます。

⑩ しかりっぱなしにせず、最後はほめて終わらせる

・しかってやめさせた場合、話が聞けたことを認め、すぐほめることが、何よりも大切です。

※完全にやめなくても、やめようとしはじめた時点でほめてしまうのもひとつの手法です。(例)「やめられたね!えらいな」「きっとできると思っていたよ!」など